

# 沖縄市の歴史

History of Okinawa City



## 越来、美里、古謝、コザ、まちの名前の変遷に歴史が刻まれています。

琉球王国の時代に、越来間切から美里間切が分離され、1908(明治41)年の沖縄県及び島嶼村制の施行で越来村、美里村となりました。

壮絶な地上戦で多くの犠牲者を出した沖縄戦終結後、難民収容所を中心に急激に人口が増えた地域に市制が敷かれ、越来村が古謝市、美里・具志川一帯が前原市となりますが、米軍より移動が許されると人口は減少し、翌年には市制を解かれ、越来村、美里村に戻ります。

米軍嘉手納基地の門前町として発展した越来村は、1956(昭和31)年6月に名称をコザ村に変更し、7月には市に昇格してコザ市となります。

そして、本土復帰から2年後の1974(昭和49)年、歴史的、地理的、社会的にも緊密な関係にあったコザ市と美里村の対等合併により「沖縄市」が誕生。琉球王国時代の1666年に分離されてから308年ぶりに再び一つの市になりました。

沖縄市では、「国際文化観光都市」を宣言し、先人から受け継がれてきた文化を大切に守りながら、力強さと魅力にあふれる市民の力を結集し、未来へと進化するまちづくりを進めています。

### The history engraved in the changing of the names of Goeku, Misato, Koja and Koza

During the period of the Ryukyu Kingdom, the area of Misato was partitioned from the area of Goeku, and these became Goeku Village and Misato Village in 1908 when Okinawa Prefecture and the island village system were created.

After the end of the Battle of Okinawa, which resulted in many casualties from the fierce ground war, a municipal system was established in the areas where the population had seen a rapid increase, mainly in the refugee camps, with Goeku Village becoming Kosha City and the Misato and Gushigawa areas becoming Maehara City. However, the population fell once the US military allowed people to move, and the municipal system was dismantled the next year, with the areas once again reverting to Goeku Village and Misato Village. Goeku Village, which developed as a gate town alongside U.S. Kadena Air Base, changed its name to Koza Village in June 1956, and was elevated to the status of a city in July, when it became Koza City.

In 1974, two years after the return of Okinawa to Japan, Koza City and Misato Village, which had historically, geographically, and socially been closely related, merged on equal terms and Okinawa City was born. They were once again a single city, 308 years after their partition in 1666 during the days of the Ryukyu Kingdom.

Okinawa City has declared itself an "International Culture and Tourism City," and is promoting the development of a city that will evolve into the future by mobilizing the abundant strength and talents of its citizens, all the while carefully preserving the culture inherited from its predecessors.



©那覇市歴史博物館

1970年 「ようこそベトナム帰還兵」の幕が掲げられたコザの通り



1974年 沖縄全島エイサーコンクール



1970年代 コザセンター大通り(現中央パークアベニュー)まつり

## 主なできごと

- 1974 ●コザ市・美里村合併で沖縄市誕生(4/1)  
●市民憲章、国際文化観光都市宣言、市民の花、市民の木制定(10/26)  
●沖縄市・豊中市兄弟都市宣言(11/3)
- 1976 ●室川小学校開校(4/13)
- 1981 ●沖縄市民会館落成(1/10)  
●安慶田中学校開校(4/7)
- 1982 ●広島東洋カープ沖縄市で初キャンプイン(2/4)  
●沖縄市民10万人突破(10/19)
- 1984 ●沖縄市文化センターオープン(4/21)  
●沖縄市シルバー人材センター設立(5/16)
- 1985 ●第1回沖縄市福祉まつり開催(1/26)  
●宮里中学校開校(4/6)  
●核兵器廃絶平和都市宣言(6/20)
- 1990 ●美原小学校開校(4/5)  
●沖縄市国際交流協会結成(7/29)
- 1993 ●第1回おきなわマラソン開催(3/7)  
●泡瀬小学校開校(4/5)  
●市役所新庁舎落成式典(4/8)
- 1994 ●沖縄市・米沢市姉妹都市提携(4/1)
- 1996 ●沖縄東中学校開校(4/5)
- 1998 ●沖縄市産業交流センター完成(4/3)  
●沖縄市民小劇場あしびなーオープン(5/17)
- 2000 ●沖縄市福祉文化プラザオープン(8/1)
- 2002 ●沖縄市・レイクウッド市姉妹都市提携(1/16)  
●第1回沖縄市工芸フェア開催(11/22)
- 2003 ●沖縄市ITワークプラザ開所(4/11)
- 2004 ●沖縄子ども未来ゾーンオープン(4/15)



1982年 広島東洋カープ初キャンプイン



1998年 沖縄市民小劇場あしびなーオープン



2004年 沖縄子ども未来ゾーンオープン



2007年 コザ・ミュージックタウンオープン



2014年 コザしんきんスタジアム落成



2018年 エイサー会館オープン

- 2005 ●沖縄市モバイルワークプラザ開所(2/26)  
●沖縄市戦後文化資料展示室「ヒストリート」オープン(9/7)  
●沖縄市武道館・弓道場落成(11/12)
- 2007 ●エイサーのまち宣言(6/13)  
●胡屋十字路がスクランブル交差点に切り替え(6/30)  
●コザ・ミュージックタウンオープン(7/27)
- 2008 ●比屋根小学校、幼稚園開校(4/3)  
●こどものまち宣言(4/30)
- 2009 ●沖縄市・東海市姉妹都市提携(11/20)
- 2010 ●沖縄市体育館落成(5/15)
- 2011 ●沖縄市社会福祉センター・沖縄市男女共同参画センター完成(1/13)
- 2012 ●知花花織が国の伝統的工芸品に指定(7/25)
- 2013 ●中心市街地循環バス本格運行(4/1)
- 2014 ●沖縄市野球場「コザしんきんスタジアム」落成(2/11)  
●沖縄市制施行40周年記念式典(11/9)  
●沖縄市民14万人突破(7/27)
- 2015 ●広島東洋カープ セ・リーグ 25年ぶり優勝パレード IN 沖縄市(2/25)  
●沖縄子どもの国に九州初のホワイトライオン来園(3/26)
- 2017 ●2017沖縄市民平和の日記念行事「折り鶴プロジェクト」で、9.7kmの「最も長い折り鶴レイ」がギネス世界記録に認定(9/7)
- 2018 ●エイサー会館オープン(3/25)
- 2019 ●沖縄市戦後文化資料展示館ヒストリート移転オープン(8/8)  
●沖縄子どもの国に希少種のジャガー来園(4/17)  
●沖縄子どもの国に新ライオン舎完成(4/23)  
●沖縄市制施行45周年式典・祝賀会(11/15)
- 2020 ●沖縄子どもの国開園50周年(5/5)
- 2021 ●沖縄アリーナ落成記念式典(3/28)



2017年 折り鶴プロジェクトでギネス記録認定



2019年 沖縄子どもの国 新ライオン舎完成



2015年 人口14万人突破



2021年 沖縄アリーナ落成



# 史跡と文化財

Historical Sites  
and  
Cultural Property

## 歴史を刻み、文化を伝える

Connecting History and Culture with the Future

沖縄市には太古の人々の暮らしを偲ばせる貝塚から、琉球王国時代、近代の史跡・遺跡、芸能、工芸などが数多く残っています。このうち、市・県・国の指定・登録文化財は31件。沖縄市では市内にある文化財を歴史・文化遺産として大切に守り、その価値を後世に伝えていきます。

Okinawa City is home to shell mounds that offer clues about how people lived in ancient times, as well as many historic sites and ruins, performing arts, and crafts from the Ryukyu Kingdom period and modern historical times. Of these, 31 have been designated or registered as cultural properties at the municipal, prefectural, or national level. Okinawa City will carefully protect the city's cultural assets as historical and cultural heritage and pass their value on to future generations.



国指定名勝  
1 「アマミクスムイ」ごまぐ (越来グスク) 国指定文化財

かつて石炭岩丘陵上に立地していた越来グスク。発掘調査により、14~15世紀後半を中心とする多量の貿易陶磁器や鉄釘などの金属製品が出土。しかし、グスク全体を知る手がかりとなる外壁は、未だ発見されていません。のちに琉球国王となる尚泰久や尚宣威が、王子時代に居城していた可能性のあるグスクの跡地。神アマミクスが創ったと伝わることから、国指定名勝「アマミクスムイ」に追加指定されました。



2 白椿

尚泰久王が越来王子時代(1418年)に世利久との間に子どもができた記念としてみかんと白椿の木が植えられました。先の沖縄戦でみかんの木は焼失しましたが、白椿は幹に艦砲射撃を受けたにもかかわらず、根が残って再生しました。その後、白椿も平成9年2月に枯れてしまいましたが、その木の2代目が屋敷地内に植えられています。



3 鬼大城の墓 市指定文化財

1458年、首里王府の総大将として勝連城主の阿麻和利(あまわり)を敗った鬼大城こと、大城賢雄の墓といわれています。知花グスクの南側の崖中腹に位置し、第一尚氏の滅亡後、第二尚氏に追われ鬼大城が自害した場所だともいわれています。



4 沖縄こどもの国・ふるさと園 国登録有形文化財

沖縄こどもの国の中にある「ふるさと園」は、沖縄の気候風土に適するように造られた明治末期から大正にかけての農家のたたずまいを復元したもので、母屋、アシャギ、畜舎、豚舎、高倉、井戸などからなります。このうち旧久場家住宅の主屋、ヒンブン、旧平田家住宅のマチフルが国登録有形文化財に登録されています。



7 登川の石碑 市指定文化財

1739年、登川部落は池原から分離、独立し現在地へ移転しました。石碑は、その記念に建てられたもので、この事業にかかわった人々の屋号と名前が記されています。首里王府は当時、山林資源の保護育成のため、県下の全域で100カ所余りの村を移動させましたが、現在、碑文として残っているのはこの石碑だけです。



10 美里村屋 国登録有形文化財

美里地区の公民館として1954年に建設されました。入母屋式の木造平屋は、沖縄伝統の建築技術と日本本土から伝えられた建築技術が融合した県内でも珍しい建造物です。現在も空手教室や子ども会、青年会などの地域活動に利用されています。



5 室川貝塚 市指定文化財

1974年に沖縄市伊舎の背後の斜面から発見されました。室川下層土器など貴重な出土品があります。周辺は歴史公園として整備され、室川貝塚は市指定文化財となっています。



8 奉安殿 市指定文化財

美里児童園の一角にある奉安殿は、かつて天皇・皇后の御真影(写真)を保管し奉る建物で、火事や水害などの緊急の場合に職員は命をかけて御真影を守ることが義務とされていました。戦時中は、戦火から御真影を守るために命を失った校長先生もいたそうです。現在でも完全な形で残っている奉安殿は、沖縄県内では3カ所しか確認されていません。



11 古謝のビジュルにあるアコウの木 市指定文化財

古謝のビジュル(市指定文化財)の横にあり、「古謝誌(1999年)」によると、ビジュルを安置した頃にはあったといわれており、樹齢100年以上と推定されます。樹形もよく古木として貴重であり、市指定文化財となっています。



6 尚宣威王の墓

尚宣威王は、第二尚氏王統の始祖である尚円王の弟で、尚円王が即位すると越来間切の総地頭に任ぜられ、越来王子と称されました。1476年に尚円王が亡くなり、尚宣威は1477年に王位を継ぎましたが、在位6か月で王位を尚真にゆずりました。その後、越来間切へ隠遁し、同年8月に没したとされています。



9 カフンジャー橋 市指定文化財

近代の石造技術を活かして1912年前後に建造されたアーチ型工法の橋。沖縄の歴史書『球陽』に、カフンジャーは昔から大雨の時には水流が激しく、交通の難所であったことが記録されており、先人の治水への苦心や橋の歴史を知る上で貴重な石造物です。



12 泡瀬ビジュル 市指定文化財

「ビジュル」とは、沖縄では信仰の対象とされる霊石のことで、多くは人形をした自然石です。泡瀬ビジュルは子安(子育て・子授け)、無病息災、航海・交通の安全などに利益があるといわれ、多くの人々が祈願に訪れます。社殿・鳥居・手水鉢が、戦前のコンクリート建造物として市指定文化財となっています。